

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	宮崎キャンパス	開設学科	健康栄養学部		
科目名称	生徒指導・進路指導 [Guidance・Career Guidance]			実務経験教員担当	○	アクティブラーニング	○
科目コード	411100	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	2 年次
教員氏名	田原 健二			学位授与の方針との関連	DP1(1)(2), 2(1)(2)		
授業概要	<p>現在、家庭・社会環境の多様化により児童・生徒の問題行動や非行など深刻な状況が生じている。本講では、児童・生徒に対する深い理解力を培い、信頼関係を深め、より豊かな人間関係の形成へとつながっていくような教員を養成するための生徒指導の考え方や指導の方法について学ぶ。また、今日、少子高齢化社会、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化等が進む中、児童・生徒の進路をめぐる環境は大きく変化している。このような中で、児童・生徒が社会人、職業人として自立していくことができるよう望ましい勤労観・職業観の育成や小・中・高を通じた組織的・系統的な取組等について学ぶ。公立学校教員として、また教育行政において公立学校生徒指導を統括した実務経験を有する教員が授業を担当する。</p>						
関連する科目	教職概論, 教育社会学, 教育心理学と関連づけて学ぶことが望ましい。						
授業の進め方と方法	<p>・講義に先立ち、本時授業の流れを確認し、見通しをもって取り組むようにする。 ・配付する資料を輪読しながら意見交換し、主体的で深い学びの授業を目指す。 ・演習を取り入れ、実践力を身に付けるようにする。</p>						
授業計画	<p>第1講 1 生徒指導の意義と課題 ① 生徒指導の意義 ② 生徒指導の課題 ③ 生徒指導の前提となる人間観・発達観 ④ 生徒指導の前提となる教育観・指導観</p> <p>第2講 2 教育課程と生徒指導 (1) 教育課程における生徒指導 ① 教育課程における生徒指導の位置付け ② 教科における生徒指導 ③ 道徳教育における生徒指導 ④ 総合的な学習の時間における生徒指導</p> <p>第3講 3 生徒指導の指導原理 ① 集団指導と個別指導の意義 ② 集団指導の方法原理 ③ 個別指導の方法原理 ④ 自己指導の助成のための方法原理</p> <p>第4講 4 児童生徒理解 ① 生徒指導における児童生徒理解の重要性 ② 児童生徒理解の対象 ③ 児童生徒理解の資料とその収集 ④ 児童生徒理解の資料解釈</p> <p>第5講 5 児童期・青年期の心理と発達 ① 児童期の発達の特徴 ② 青年期の発達の特徴</p> <p>第6講 6 教育相談 ① 教育相談の意義 ② 学校における教育相談の特質 ③ 教育相談体制の構築 ④ 教育相談の進め方(演習)</p> <p>第7講 7 生徒指導の進め方 ① 児童生徒全体への指導 ② 生徒指導における教職員の役割 ③ 学級担任・ホームルーム担任の指導 ④ 基本的な生活習慣の確立</p> <p>第8講 8 いじめ ① いじめ問題の理解 ② いじめ問題への対応 ③ インターネット・携帯電話にかかわる課題 ④ 性に関する課題 ⑤ 命の教育と自殺の防止</p> <p>第9講 9 進路指導の意義と概念 ① 進路指導の重要性 ② 進路指導の意義 ③ 進路指導の諸活動 ④ 進路指導に関する法的規定</p>						

	<p>第10講 10 教育課程と進路指導 ① 教育活動全体を通じた進路指導 ② 進路指導と各教科 ③ 進路指導と道徳教育 ④ 進路指導と特別活動</p> <p>第11講 11 キャリア教育の推進 ① 進路指導の基本的な性格 ② キャリア教育・職業教育とは ③ キャリア教育が求められる背景 ④ キャリア教育と職業教育の基本的方向性</p> <p>第12講 12 学校におけるキャリア教育の在り方 ① 学校に求められている課題 ② 小・中・高等学校におけるキャリア教育の目標 ③ キャリア教育の全体計画 ④ 中・高等学校におけるキャリア教育（進路指導）の取組</p> <p>第13講 13 進路指導の指導方法・技術 ① 進路指導の諸方法 ② 進路相談の技術 ③ 進路指導における心理テストの活用 ④ 進路相談の実際（演習）</p> <p>第14講 14 職業観・勤労観の形成 ① 職業観・職業観の意義 ② 青少年の職業観 ③ 職業観形成の要因 ④ 職業観形成の指導</p> <p>第15講 15 進路情報の収集と活用 ① 進路情報の意義 ② 進路情報の機能 ③ 進路情報の種類と情報源 ④ 進路情報の収集・整備・活用</p> <p>◇試験 ○ 児童生徒の成長に果たす教師の役割 評価</p>	
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに対する愛情と、子どもとの信頼関係を築くことの大切さを生徒指導の基本として身に付ける。 ・仲間との教え合い、学び合いを通じて必要な知識をや技能を高める。 ・社会人としての良識や倫理観、心の豊かさ、指導者としての姿勢を身に付ける。 	
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に渡した資料を熟読し、次回の講義内容を把握して見通しをもった取組をする。（予習）15時間程度行う ・授業で学んだ内容を振り返り、次へ繋げる意識を持つ。（復習）15時間程度行う ・数回授業終了後に示す課題についてレポートを作成する。レポート作成に15時間充てる ・科目に関係する書物を読み、知識を深める 15時間程度充てる <p>※時間外学修には、この科目が2単位なので原則60時間以上行うこと</p>	
課題に対するフィードバック	小テスト、レポートは評価後、返却及び解説する。	<p>評価方法・基準</p> <p>レポートと定期試験の成績で評価する。 定期試験（80点）、課題提出（20点）</p>
テキスト	文部科学省「生徒指導提要」（平成22年3月）	
参考書	その他必要に応じて図書、資料を紹介する。	
備考	学校現場にあっては生徒指導主事、行政では教育事務所の生徒指導担当主事、教育事務所長として管内公立学校生徒指導を統括した実務経験を有する教員が授業を担当する。	